越前町のさらなる発展を目指して

Vol.10
2025.11

時田かずいちろう通信

有言実行

福井県議会議員 **時田 かずいちろう**

町民の皆様方には日頃より大変お世話になり、また福井県政発展に向けた活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

今回は令和7年9月定例会の一般質問を掲載させていただきます。「ふるさと福井への地元愛を育む政策について」は、今年の高校生県議会において私が担当した敦賀高校の生徒さんの提案をもとに人口減少対策にも繋がるUターン対策やふるさと教育について質疑いたしました。「中山間地域農業と担い手支援について」は、水田農業や越前町の大部分を占める中山間地域農業への支援と担い手育成支援について質問や要望をいたしました。その他にも「警察官の採用・人材確保、働き方改革について」、「観光防災の対応強化について」質問いたしました。

今回も11月16日と30日に越前町議会議員の皆さんと共に、我々議員からの発信と町民の皆様の声を直接お聞きする「越前町を語る会」開催させていただきます。今まで開催させていただいたどの会場にもたくさんの方々にお越しいただき、活発な意見交換やたくさんのご要望などをいただき、大変好評を得ています。県政のこと、町政のこと、またお困りのことなど、日ごろ皆様が思っておられることを直接お聞きしたり、質問にお答えしたりする予定ですので、ご参加いただければ幸いです。

これからも越前町ならびに福井県の明るい未来のために、全力を尽くして参りますので、よろしくお願い申し上げます。

目次

一般質問

1 ふるさと福井への地元愛を育む政策について
2 警察官の採用・人材確保、働き方改革について
3 中山間地域農業と担い手支援について
4 観光防災の対応強化について

一般質問
フルバージョンはこちら

越前町を語る会

おかげさまで大好評

福井県や越前町の連携を中心に、町民の皆様と今を語ります！

11月16日(日)　14：00～　越前町地域交流センター　ニジハコ　1階
11月30日(日)　14：00～　越前コミュニティセンター　2階大会議室

９月議会 一般質問 ①

※実答弁より抜粋しております

1 ふるさと福井への地元愛を育む政策について

Q1 時田 Uターンの傾向と今後の対策は？

A 未来創造部長

県や市町の支援を受けてU・Iターンした「新ふくい人」は年々増加しています。特にIターンは10年前の約5倍に増え、全体の7割を占める一方、Uターンの割合は相対的に低下しています。
それでも毎年300～400人が行政の支援で福井へ戻っています。

県の調査では、県外就職の理由として「県内に志望企業・職種がない」が多く、Uターンのきっかけは「結婚」「出産・子育て期」が中心。実際、20～30代がUターン者の約7割を占めています。

このため、今年度から「ふくアプリ」を活用した情報発信を開始。高校生のうちから登録を促し、進学・就職後も福井の魅力を伝え続け、「ふく育県」としての暮らしの良さを届け、一人でも多くのUターンにつなげていきます。

Q2 時田 子どもたちが地元愛を実感できる場づくりは？

A 教育長

小中学校では、生活科・社会科・総合的な学習を通じて地域を学ぶ「ふるさと学習」を実施しています。全ての小中学校が「ふるさと福井CMコンテスト」に参加するなど、取組みは県内に定着しています。

全国学力・学習状況調査では、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた児童生徒が全国上位（小6：85.9%、中3：79.0%）であり、ふるさと教育の効果が現れています。

今後は、学習内容を「自分にできる地域貢献」や「将来の目標」としてまとめるシートを導入し、学びを実感につなげます。また、優れた取組みを紹介・発表する機会を設け、県全体でふるさと教育の価値を広めていきます。

Q3 時田 公設塾の設置・運営への県の支援は？

A 教育長

美浜町が令和5年に開校した公設塾「サン」では、小5～中3の約60人が活動しています。子どもたちは観光PR動画の制作やオリジナルスポーツの開発など、町の活性化に関わっています。

夏には子どもたちが主体となって夏祭り「サンフェスティバル」を企画・運営し、「地域の大人と一緒に考えるのが楽しい」「人前で話す自信がついた」といった声も上がっています。

こうした活動を通して地域と関わる成長が見られ、ふるさと教育の好事例となっています。県としても、この美浜町の取組みを他市町へ積極的に紹介し、広げていきます。

2 警察官の採用・人材確保、働き方改革について

Q1 時田 警察官採用の年齢引き上げや再採用の成果、配属の考え方は？

A 警察本部長

受験可能年齢の引き上げや再採用制度の導入により、受験者の裾野が広がり、優秀な人材確保が期待されています。
すでに大学卒業者対象の試験では、申込者158人のうち10人が年齢引き上げにより受験可能となりました。再採用試験は10月に受付開始予定で、今後の動向を注視しています。

再採用者については、退職時の階級や勤務経歴を踏まえ、必要な研修を行ったうえで即戦力として配置します。今後もこれらの制度を継続し、人材確保に努めていきます。

Q2 時田 ワークライフバランス推進計画の成果は？

A 教育長

女性警察官の割合は目標に向け順調に増加しており、今後もキャリア支援や働きやすい環境づくりを進めます。

年次休暇の平均取得日数は目標の12日を達成。本年9月からはフレックスタイム制を導入し、より柔軟な働き方を推進しています。

また、男性警察官の育児休業取得率は当初目標を達成し、現在は新たに取得率100%を目指す目標に改定。補完体制の充実など、取得しやすい環境づくりを進め、働きやすい職場を実現していきます。

９月議会 一般質問 ②

※実答弁より抜粋しております

3 中山間地域農業と担い手支援について

Q1 時田 水田農業の担い手確保支援の効果は？

A 農林水産部長

県では、新規就農者や集落営農組織の後継者が技術を学ぶ「越前若狭田んぼ道場」や、農業法人等への就業を促す「OTAMESHI就農」を実施しています。
また、昨年度からは「集落営農救援隊」を組織し、地域の営農継続を支援しています。
その結果、令和元年度から6年度までに706名が新規就農し、うち52%（369名）が中山間地域での就農です。救援隊は14組織を支援し、うち3組織で後継者やオペレーターの確保に成功。定年退職者の農作業参加や若手の意見交換など、新たな動きも生まれています。

Q2 時田 担い手育成を支援する体制の強化は？

A 農林水産部長

地域農業は、大規模農家だけでなく、小規模農家や新規就農者など多様な担い手に支えられています。
こうした担い手を支援するため、県はJAや市町と連携し、集落営農救援隊による伴走支援を強化しました。
また、新規就農者には、農地・住宅の確保や就農プランづくり、補助制度の活用など多岐にわたる支援を提供。今年度から市町に「ワンストップ窓口」を設置し、今月には越前市エリアにも新たな窓口が開設されました。今後も市町・JA・県が連携して体制を整備していきます。

Q3 時田 中山間地域の実情に応じた制度見直しは？

A 農林水産部長

中山間地域では、国の「直接支払交付金」により、水路や農道の維持、鳥獣害対策、耕作放棄地防止などを集落単位で行っています。
農業者の「手続きが煩雑」との声を受け、国は今年度から押印の廃止・様式簡素化・非農家や建設業者の参画容認などの改善を実施しました。
県も引き続き、地域の実情を踏まえた制度となるよう国へ働きかけていきます。
さらに、地域の中心組織「農村RMO（地域運営組織）」の育成を支援し、住民主体の活動を通じて中山間地域の維持・発展を目指します。

Q4 時田 行政による農地保全のあり方は？

A 知事

中山間地域の農地保全は、県の農業基本計画に基づき、地形に応じた基盤整備、省力化、ゾーニングなどで進めています。
基盤整備計画の約8割が中山間地域にあり、畦畔の緩やか化やパイプライン化に加え、鳥獣害対策の恒久柵設置なども進めています。
農地保全は耕作と一体で進めることが重要であり、地域の主体的な取組みが欠かせません。
県としては、谷筋など条件の厳しい農地整備や、林地と一体となった基盤整備の推進など、地域の実情に合わせた支援を進め、希望と魅力ある農業の実現を目指します。

4 観光防災の対応強化について

Q1 時田 観光危機管理計画の策定は？

A 知事

県の地域防災計画では、外国人観光客を「要配慮者」として位置づけ、市町に情報伝達体制の整備を求めています。
県も「防災ネット」や「LINE避難所受付システム」を多言語化するなど、観光客への対応を進めています。
一方、観光客は土地勘がなく、特に外国人は言葉の壁があるため、避難誘導の体制強化が重要です。
観光庁では、防災部局と観光部局が連携した「安全対策手引書」を策定しており、全国的にも観光危機管理計画を持つ自治体はまだ少ない状況です。
他県の事例を参考に「観光危機管理指針」の策定を検討するとともに、市町にも他地域の事例を紹介しながら、独自の危機管理計画策定を促していきます。

Q2 時田 観光事業者の災害対策をどう進めるか？

A 交流文化部長

災害による経営への影響を最小限にするため、観光事業者も事業継続計画（BCP）を策定し、災害時の対応体制を整えることが重要です。
県ではこれまで、全業種を対象にBCP策定セミナーを開催し、策定支援を進めてきました。
また、市町には避難所の環境整備のため、ベッド・パーテーション・備蓄品の整備費補助を行っています。
今後は、観光事業者向けに「観光BCP作成ガイド」の活用や、国のセミナー、非常用電源の設置補助などを推進。
これらの支援を通じて、観光客が安心して楽しめる ような、防災対策への取組み を強化していきます。

活動の一部を写真で紹介！

活動ダイアリー

2025年 7月▶2025年 9月

マレーシア大使館訪問

天王川カヌー教室

ふくい高校生議会

土木警察常任委員会 県外視察

「山の日」全国大会

越前町中央要望活動①

越前町中央要望活動②

ふるさとお盆祭り＆竹あかりフェス

福井県議会プロスポーツ促進議連

令和７年度越前町敬老会

令和8年度越前町重要要望

越前町地域交流センター落成式②

ふくいの未来を考える研修会①

ふくいの未来を考える研修会②

越前町を語る会

発行

時田かずいちろう事務所

〒916-0141　丹生郡越前町西田中２丁目606
電　話：　0778-34-2533
メール：　fs-asahi@ebony.plala.or.jp

ホームページ　ご意見はこちら　Instagram